

【令和2年度航空研究センターシンポジウム（7月17日実施）】

パネルディスカッション①

- 軍事作戦の変遷と今後の展望 -

モデレーター：運用理論研究室長 1等空佐 志津 雅啓
パネリスト：防研戦史研究センター長 石津 朋之
政策研究大学院大学副学長 道下 徳成
運用理論研究室 2等空佐 上高原 賢志

モデレーター(志津)：20世紀に入り、軍事作戦の進化や大きな変化は幾度となく起きてきました。さらに、21世紀に入ってから、科学技術の目覚ましい進歩も相まって、その変化は急速に進んでいます。軍事作戦の様相も、国家間の大規模なものから、地域紛争やテロ等、その様相も大きな変化を遂げてきました。

問1(志津)：安全保障の世界を俯瞰すると、軍事作戦は常に変化をしており、まさに今も何かが変わっている最中なのかもしれません。とかく、近年は経済や外交など、あらゆる分野で声高に「今は変化の時」と言われています。その上で、今の軍事作戦における変化というのは、過去に例を見ないものなののでしょうか、それとも従前の潮流の繰り返しののでしょうか？

石津：直接の解ではありませんが、軍事革命という概念で説明しますと、軍事革命とは、技術革新を生むだけではなく、社会へのフィードバックがあるものです。これまで軍事革命は、4～5回あったと認識されています。今は6番目ではないかと思料します。軍事革命であるかは、後になって評価されるものです。歴史家は、後から都合のいいところに目をつけるものですが、今は大きく、かつ重要な変化をしています。

道下:変化は繰り返されますが、今は重要な時期であると認識しています。ちなみに、冷戦期のゲームチェンジャーは、SDI、パーシング II、トマホークでした。ゲームチェンジャーと言っても、各国が同時に実施するので戦力に大差はありませんでした。ただし、旧ソ連は政治的な理由で巡航ミサイルの開発で出遅れたため、その差は大きくなりました。その教訓は、相手が開発している技術は、自分もそれなりに開発を進めておくべきということでしょう。また、演習や訓練も軍事作戦の変化を促進する上で重要な要素です。

モデレーター (志津): 具体的に冷戦期からの変化を挙げるとすれば何があるのでしょうか?

道下:核兵器によって、破壊力の強化は既に必要性の限界に達しています。その意味で大きい変化はありません。コンピュータやAI技術の発展によって、人間よりも機械に判断させる部分が大きくなれば、それは革命的な変化といえるでしょう。

上高原:冷戦期は新しい技術が特に注目されていましたが、これからは、新しい技術だけではなく、成熟した技術もゲームチェンジャーとなり、軍事作戦に変化を大きくもたらすものと認識しています。

問2 (志津):安全保障分野で様々な技術革新がなされ、大きな軍事作戦の変化があることは理解しました。その上で、いわゆる「ゲームチェンジャー」となるものがあるとすれば、それは何だとお考えですか?

石津:「ゲームチェンジャー」をどう定義するのかに依ると思料します。ただし、技術そのものが決定的になることはなく、運用に依るものと考えます。核兵器はゲームチェンジャーでした。破壊力もそうですが、我々の認識を変えたことは大きいでしょう。簡単に戦争ができなくなりました。また、トマホークが20世紀のゲームチェンジャーという話がありましたが、カラシニコフは21世紀のゲームチェンジャーであるとも言えます。

道下：AIと極超音速プラットフォームを組み合わせたものは、ゲームチェンジャーになり得る兵器と考えます。人間の認識速度を遙かに超えたところで勝負が決まってしまう可能性が出てきます。

上高原：戦い方のルールを変える「ゲームチェンジャー」は、決して新しい技術だけから生まれるものではありません。既存の成熟した技術を組み合わせれば、何でもゲームチェンジャーになる可能性はあります。

福田：（石津先生に対し）グローバリゼーションについては、10年前くらいの話であり、今はその反動が来ているのではないかと認識しています。また、予防と先制に関し、抑止の認識はどうでしょうか？

石津：確かに主権国家の復権ということは領有権問題などにおいて見られます。しかし、グローバリゼーションに抗うことはできません。抑止については、今でも使えます。しかし、社会の風潮において、1分の遅れも許さないというようなこともあり、やはり予防（先制）の原則の受容が求められます。

モデレーター（志津）：「軍事作戦の変遷と今後の展望」と題し、歴史を紐解き、これまでの技術の発展、作戦術の進化等による軍事作戦への影響や変貌を示唆いただきました。我が国周辺の安全保障環境も例外ではなく、まさに技術革新に伴う戦闘様相の変化等に直面しています。その予測困難、かつ不確実性が高まる中、「抑止」及び「対処」にどう資するか、議論及び検討を深化することが重要と考えます。